

## 令和6年度第1回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1 日 時 令和6年10月25日（金）午後2時～午後3時30分

2 場 所 和東町体験交流センター 会議室

3 出席者 広域連合長 平沼 和彦  
副広域連合長 山本 篤志  
副広域連合長 馬場 正実  
教育長 岡田 善行  
教育委員（教育長職務代理者） 石橋 常男  
教育委員 村田 年宏  
教育委員 谷本 一榮  
教育委員 鈴木 慶一

4 傍聴人 なし

### 5 議 事

#### (1) 開会

司 会 松浦事務局長

#### (2) 広域連合長あいさつ

平沼 広域連合長

〔 相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条の規定により、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。 〕

#### (3) 議 題

##### ① ふるさとを愛し貢献する教育について

〔 教育長から資料に基づき説明があり、意見交換を行った。 〕

#### <主な質疑・意見交換>

##### ○教育長

ふるさとを愛し貢献するというのは、連合教育委員会の基本理念の一つ。人口の急減や超高齢化、それに伴う生徒数の減少の中で、地方をどう創生させていくかは大きな課題である。

特に、まちづくり、教育が抱えている人づくり、少なくなっていく管内の子どもたちをどのように教育していくかということが最大の課題である。

#### ○連合長

子どもがUターンするというのは、その時のいい思い出があるかどうかだと思う。小さい時にいじめられたり、師弟関係がうまくいってなかったりすると、なかなか帰って来られないと思うので、いかに小中学校の時に楽しい思い出が作れるかにかかっている。

#### ○教育委員

小中学校の時の良い思い出が、最終的に地元に戻って頑張ろうかなというきっかけになる。仲間と一緒に作り上げた喜びを体感させるということが大事になってくる。

いじめがあったとしても、子ども同士の絆の深さにつながっていくような学校としての取組で解決すればよい。ただ、不登校については早急に解決する必要がある。

#### ○教育長

良き学校を作って、いじめゼロを目標に掲げている。学校も自分たちの学校なので、校則をはじめ、自分たちのしたいことを自分たちで決めて作ってもらう。そこにはいろんなトラブルもあるだろうが、それが、いろんな意味で仲間を作っていくことなのではないか。

#### ○教育委員

笠置小学校は21人と子どもが少ないが、一人ひとりの個性を、いいものを引き出しながら、そこを伸ばせるような環境づくりを進めることが必要。周りの人たちと特別なつながりを広めていくことで、ちょっとでも子どもたちに関心を持ってもらうことにつながる。

#### ○教育委員

10年ほど前、卒業する6年生に向かって、笠置町は人が少なく不便だが、楽しんでほしいという話をしたことがある。

行政的には交通の問題があり、交通の便が良くないために、子どもが学校に通う際に、引越しをしないといけないことがある。不便は不便で楽しめばいいが、町と行政が「楽しんでください」と言うのではなく、それに応えるような取組をお互いができればと思う。

#### ○副連合長

このままの教育でいいが、子どもを甘やかしすぎているのではないか、また、親を甘やかしすぎているのではないか。

今の時代は塾に行くか、家に帰るかであって、そういう社会環境が一番問題である。子どもたちは被害者であり、それを過保護にしている親がもっと被害者かなと思う。

中学校の卒業式は式典である以上、式としてのしきたりを守るべきであり、そういうことを親にも子どもにも教えるべきである。

#### ○副連合長

小学校、中学校の記憶はものすごく大事で、その時の記憶は大人になっても鮮明に覚えている。ふるさとを愛し貢献する教育というのは、小中学校の時につくられるのかなと思っている。

小人数ながら、中学校から保育所まで縦というか年齢に関係なく交流しているところを見てい

ると、よそにはない、笠置のいいところかなと思う。子どもたちの小中学校の思い出は、外に出てもいつか戻ってくるという将来に向けての投資であり、種まきでもあると思う。

笠置のいろんな情報をいっぱい発信して笠置で教育を受けたい、受けさせたいと思うようなところをしっかりとやっていきたいし、実現のためにやっているところである。

## ② 各町村と学校が連携した防災訓練の実施について

教育長から資料に基づき説明があり、意見交換を行った。

### <主な質疑・意見交換>

#### ○教育委員

笠置小学校は、消防団や地域、特に民生委員の方が一緒に関わりながら、講習会が行われており、学校での訓練の規模は大きくしてくださっている。

#### ○教育長

訓練は学期に1回、和東中学校は1月、2月、3月と地震と火災をどこの学校もやっている。最初は、総務課あたりに来て見ていただき、いずれ一緒にできたらいいのかなと思う。

#### ○副連合長

あらゆる時間帯を想定して、きれいな訓練ではなくてうまくいかなくてもいいと思うので、子どもたちの安全を守るためと、大人の皆さんの本当に漏れているところ、気がつかないところも見つけ出そうと、調べ直しているところである。

#### ○副連合長

学校で大雨警報が出たとき、学校としては、どこまで責任を持つのか。

#### ○教育長

警報が出たとき、小学校なら、子どもが学校にいたら安全確認して子どもを引き渡す。中学校なら安全確認をして帰らせるし、帰らせられない状況の場合は帰らせない。学校が責任を持って子どもを預かる。

#### ○学校教育課

朝、熱中症アラートが出ていれば、子どもには自宅待機をさせ、オンラインで授業を行っている。

学校にいるときに警報が出た場合は、基本は保護者全員に連絡を行い、迎えに来てもらうが、仕事の都合ですぐに迎えに来られない場合は、空調の効いた学校で待ってもらい、7時、8時頃まで待つことはある。

また、学校から保護者への引き渡しがきちんとできるよう、地震の訓練時などに、保護者引き渡し役をなどして行っている。

### ③ 部活動の地域移行について

社会教育課から資料に基づき説明があり、意見交換を行った。

#### <主な質疑・意見交換>

##### ○教育委員

都道府県の教育委員会が2025年を目指して地域スポーツに力を入れたが、京都府のようになかなか難しいところもあるので地域移行というのは難しい。

京都府保健体育課は、ゆっくり地域の実情にあった形で移行を考えようという話を夏に言っており、それに従って、スポーツ地域移行はゆっくり進めて行けばいいと思う。

##### ○教育委員

部活動の地域移行が順調にできている場合、移行してしまったら、部活動はなくなるのか。

##### ○教育長

地域移行というのは、中学校の部活を外に出すということを目指しているが、中学校の先生には部活を一生懸命やりたいという人もおり、それを外に出すというのは抵抗があり、そう簡単にはいかない。

今委員会を作ってもらい、子どもたちが一体何をしたいのかということアンケートしてもらいながら、それに合った受け皿をつくれたら移行しようかとしている。

学校の部活は、最終的にはなくそうと思っている。

##### ○副連合長

部活動の全国大会はどうなるのか。

##### ○教育長

スポーツ団体で行っているものもあれば、種目によっては、水泳など、全国大会がなくなっているものもある。

### (4) その他

#### 子どもの教育のための総合交付金について

学校教育課から資料に基づき説明を行った。

##### ○学校教育課

補助金を活用し、以下の事業を実施した。

##### 【授業改善アドバイザー事業】

管内5小中学校にアクティブラーニング授業を展開するため、合同研修や現地指導を実施

##### 【認め合い、楽しく学ぶ仲間づくり事業】

管内5小中学校の児童・生徒、教職員を一堂に会し、縦割り版での活動を実施